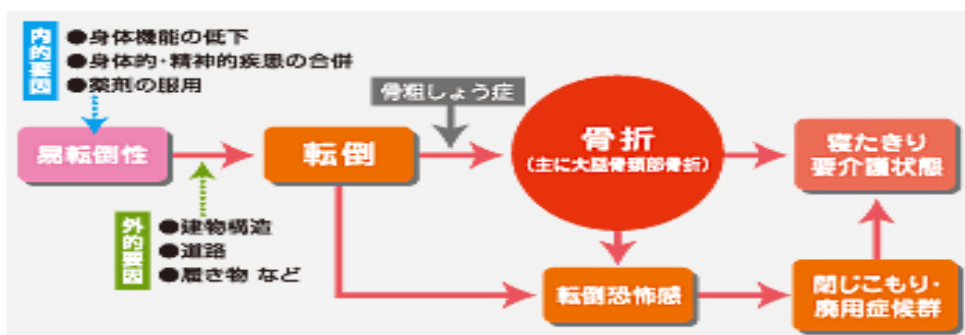


転倒と転倒リスクのある薬剤について

転倒が及ぼす影響

加齢に伴い身体の機能が低下している高齢者は転倒のリスクが高くなります。下の図は、易転倒性(身体機能の低下や服用中薬剤の影響により転倒しやすい状態)が予後に及ぼす影響を示したものです。



転倒リスクの要因

転倒リスクの要因として、内的要因・外的要因・行動要因の3つに分けて考えることができます。転倒は下記の要因が絡み合って起こるため、リスク要因を取り除いていく必要があります。

内的要因: 加齢、疾患、薬剤による患者のリスク因子

外的要因: 住環境、生活環境によるもの

行動要因: 過度のアルコール摂取、運動不足による筋力低下など

転倒と関連のある副作用と原因薬剤

精神機能の障害	傾眠、眠気	睡眠薬、抗不安薬、抗てんかん薬、抗うつ薬、精神神経用薬、抗ヒスタミン薬、麻薬
	せん妄	抗パーキンソン病薬、麻薬、鎮静催眠薬、抗うつ薬、β遮断薬、H ₂ 受容体遮断薬、ジギタリス製剤
	めまい	プレガバリン、抗認知症薬、抗てんかん薬
	ふらつき、注意力低下	NSAIDs、麻薬、抗てんかん薬、抗不安薬、睡眠薬

運動機能障害	筋緊張低下・筋弛緩薬・睡眠薬・ステロイド	抗不安薬、筋弛緩薬、睡眠薬、ステロイド
	パーキンソン症候群	精神神経用薬、メクロプラミド、抗うつ薬
	末梢神経障害	イソニアジド、エタンブトール、抗がん剤
	横紋筋融解症による四肢脱力	HMG-CoA還元酵素阻害薬、フィブラート系薬
その他	低血糖	SU薬、グリニド薬、SGLT2阻害薬、 α -グルコシダーゼ阻害薬、インスリン製剤
	起立性低血圧	高血圧(特に α 遮断薬)、利尿薬、抗うつ薬
	脱水	利尿薬、SGLT2阻害薬
	排尿障害	抗コリン薬、三環系抗うつ薬、抗ヒスタミン薬、ベンゾジアゼピン系薬
	低Na血症	サイアザイド系利尿薬、プロトンポンプ阻害薬、NSAIDs、アセトアミノフェン、アミオダロン
	視力障害	抗コリン薬、抗うつ薬、抗結核薬、抗てんかん薬、免疫抑制薬、ジギタリス製剤

2021年の厚生労働省の人口動態調査では1995年と比べ、転倒・転落・墜落に関する死亡は1.7倍に増加しています。その背景としては、転倒リスクを高める薬剤処方の増加が関係していると報告もあります。転倒の要因となる薬剤は、表にまとめたように多種多様です。多剤服用になるほど転倒リスクが上昇することが報告されています。

転倒防止対策は単一職種のみではなく各専門職種の連携による介入が効果的とされています。転倒の原因が薬物かそれとも元々の病態や環境によるものなのかを多職種で総合的に評価することが重要です。

